

今回「第五版」の主な内容について

令和7年(2025)2月27日

辻 謙一

1 要旨

○第四版(中間報告)までに現地調査した箇所には**新規調査箇所 12 か所**を追加した。

○数量のカウントは、1箇所に複数種類の災害区分の伝承施設等があれば、個別複数を原則とし、箇所数の算定を見直した。

○年号表記も、碑文原文以外は、例として、「令和7年(2025)」というふうに統一した。

	第四版	第五版(今回追加箇所数)	累計
◇大阪府	140 箇所	3 箇所	143 箇所(27)
◇京都府	138 箇所	9 箇所	147 箇所(30)
計	278 箇所	12 箇所	290 箇所(57)

()内は令和6年12月時点の国土地理院様の地図に記載箇所数

○大阪府域、京都府域**以外**においても、東京都、山梨県、福井県、奈良県、三重県、兵庫県、滋賀県、和歌山県あわせて新規箇所 34 件を追加した。

2 災害区分

◇大阪府 箇所数

安政南海地震	6
淀川水害(明治18年)	29
淀川水害(その他)	10
大和川水害	4
寝屋川水害	4
室戸台風(学校内)	17
室戸台風(その他)	20+1=21
水防碑(大阪市内)	14
阪神・淡路大震災	6
火災	1+1=2
東日本大震災	1
昭和10年水害	1
疫病	2
分類困難・その他	26
計	140+3=143

※「その他」とは寺院等
※概ね区役所単位

◇京都府

淀川水害(明治18年)	1	
丹後大震災	39	
室戸台風(学校内)	8	
室戸台風(その他)	10	※「その他」とは寺院等
昭和10年水害	5	
亀岡平和池水害	3	
昭和28年水害	17+4=21	※同年の台風13号水害も含む
由良川水害	20	※水系含む(昭和28年水害は内数)
火災	8+1=9	
疫病	1	
分類困難	26+4=30	
計	138+9=147	

3 画像

◇公開画像は、今後の防災的視点から、石碑等とともに、可能な範囲で災害後の現地状況(河川・山・校舎等)を盛り込むこととした。

◇可能な限り、地域等の災害の伝承活動も個票に掲載するよう努めることとした。

4 特記

◇地震等の正式名称は気象庁が命名されるが、一般的に使用されている名称を記載している。

例 「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」⇒「阪神・淡路大震災」

◇「碑文原文」、「碑文要約」及び「碑文背景」いずれも参考である。
誤謬等あればご指摘願いたい。

◇今後、現地調査等により、可能な範囲で、箇所及び記載内容について、精度を上げていくとともに、年に一度2月に更新予定。

5 参考文献

- 「川の碑」 川の碑編集委員会(山海堂)
- 「天災から日本史を読み直す-先人に学ぶ防災」磯田道史氏(埼玉福祉会)
- 「濁流が走る 新聞記事にみる淀川・大和川の洪水」(淀川・大和川洪水予報連絡会)
- 「震災記念碑 : 後世に残された北丹後地震の記録」今井利宗氏, 金折裕司氏編([山口大学大学院理工学研究科])
- 土木史研究第 15 号 1995 年 8 月 琵琶湖の歴史洪水と瀬田川浚渫についての土木史的研究 竹林征三氏 今井範雄氏
- 京都歴史災害研究第 11 号 (2010) 17 ~ 29 室戸台風、大阪での暴風・高潮の被害 長尾武氏
- 京都歴史災害研究第 15 号 (2014) 1 ~ 10 近代大阪人の災害意識と地震時における避難行動 飯田直樹氏
- 京都歴史災害研究第 18 号 (2017) 17 ~ 27 明治 18 年の淀川洪水と北河内 片山正彦氏
- 京都歴史災害研究第 19 号 (2018) 13 ~ 24 室戸台風による京都市とその周辺の学校被害と記念碑 植村善博氏
- 京都歴史災害研究第 20 号 (2019) 43 ~ 51 大阪府における明治 18 年「伊加賀切れ」に関する記念碑について 木谷幹一氏